

令和7年が幕を明け、3学期がスタートしました。3学期は年度のまとめとともに、次年度に向けての助走を始める大切な学期となります。月日が過ぎるのは早いと実感しますが、各学校がCSとなってからは既に3年、来年度は4年目を迎えます。

ここで一度立ち止まり、それぞれの学校の進捗状況の確認、学校運営協議会の運営状況について委員のみなさんで振り返って共有し、次のステージに進むための協議会での熟議やアンケートを後日お願いする予定です。ご協力をお願い致します。

さて、2学期も学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員のみなさんには、各学校での協議会や教育活動支援にご尽力いただき、児童生徒の学びや体験活動が充実したものとなりました。そんな取り組みの一例と2月の研修会で講師を依頼したコーディネーターが関わっている学校での先進的な取り組みを紹介します。

【サービラーニングの実践－湖北台中学校の地域貢献学習】

湖北台中学校の総合的な学習の時間を取材し、教育雑誌に目を通していた際にサービラーニングという言葉が目にとまり、読み進めていくと湖北台中が実践している地域貢献学習そのものだということを感じました。サービラーニングについての詳細はここには記しませんが、湖北台中1年生で現在進行中の地域貢献学習について紹介します。

<地域を学び、故郷のために考動> ←地域貢献学習のテーマとして設定

ステップ① 10/30(水)事前オリエンテーション

- ・本学習活動のねらい、計画等について周知する。

ステップ② 10/31(木)地域の方々との懇談

- ・地域の現状や課題、実際に困っていること、中学生に期待していること、これから地域に望んでいること等について地域の大人と中学生が対話。中学生からも積極的な質問や意見が述べられていた。

→地区社協、まち協、民協、自治会、PTAなど様々な立場の大人21名が参加。生徒5人程度のグループに地域1～2名が入って進行。

- ※中学生が様々な立場の大人とコミュニケーションをとること自体も目的であり、地域への関心を高めるとともに、対話力、対人関係構築、社会性の醸成をねらっている。



【生徒の声】

- ・地域のお祭りの目的など、言われて「確かにそうだ」という気づきがあってよかった。
- ・改めて地域の現状を知ることができてよかった。自分達でもできることを積極的に行い、地域のために動ければいい。
- ・今まで知らなかったこと、想像とは違ったことを聞いた。私達中学生が力になれることを少しずつ実行できたらと思う。
- ・話していてとても楽しかった。私なりにもっとやれることに挑戦して地域に貢献したい。
- ・お年寄りの方がもっと外に出てきてくれるような企画をします。待っていてください！

ステップ③ 10/31(木)

- ・地域の方との対話を経て、中学生が自分達のできる(可能な)地域貢献活動について考え、まとめていく。
→地域の魅力発信、祭礼スタッフ、挨拶運動、高齢者との会話
災害時の手助け、町内の清掃、地域交流イベント開催 etc.



ステップ④ 11/28(木)

- ・自分達で考えたことを地域みなさんに提案。ご意見をいただき、修正、優先順位、詳細な計画を立案していく。



ステップ⑤ 12/19(木)

- ・実際に地域に出て、まずは計画に沿って行動・提言

湖北
駅
長
室
で



お
弁
当
屋
さ
ん



小
学
校
教
員
と



駅構内外のポスターを有効活用!

台中で収穫した野菜を食材に!

6年生に台中のプレゼンを!

- ・活動の振り返りと修正、改善→2回目の計画に

※これ以降も3年間を見据えた学習計画を立て、地域学校協働活動を取り入れた台中の総合的な学習の時間の柱として発展させ、小中を繋げていく予定です。地域への新たな気づきや愛着をもち、自己有用感を高めていくであろう生徒たちが、地域のために全力で活動する姿を見るのが楽しみです。

【2月の研修会に向けてー先進地域から学ぶ】

ふるさと美麻を愛し、語り、想い続ける児童生徒

<長野県大町市立美麻小中学校(義務教育学校)を訪問して>

- 2月6日(木)の研修会での講師を依頼した文科省CSマイスター前川氏がコーディネーターを務める学校を参観、たくさんの学びがありました。

① グランドデザインに地域との協働について具体的に項目を明記

→学校運営協議会での学校評価に

(例)総合的な学習の時間では、美麻スクールパートナーズをはじめ様々な皆さんと共に学ぶ場「美麻市民科」と「夢の時間」を位置づけ、ふるさと美麻や友達、自己との対話を深められるようにします。

② 「美麻スクールパートナーズ」(地域学校協働本部)

- ・学習部の取り組み(一部)
→総合的な学習の時間(美麻市民科)での協働

(森の授業、花豆産業化、山菜学習、鹿角革クラフト、土器作り、小屋作り、蕎麦打ち、イワナ生態等々)

地域資源をフル活用、パートナー会議で地域も学ぶ

→国際交流事業(隔年で5・6年生がカリフォルニア訪問)での協働
事前学習、準備(渉外)、引率等に関わる

- ・地域部(略)

③ 学校運営協議会での熟議

- ・参観当日は学校関係者評価を行っていたが、それを受けて協議会で「学校評価のまとめ」を作成。それに基づいて次年度の「学校づくりガイドライン」を作る。

→日頃の学校生活や授業に関わり、学校・子どもをよく見ている会議
教育内容、学校の授業(協働的な学び)について熟知している会議



◇紙面では紹介しきれませんので、残りは研修会当日に!

※環境・条件は我孫子と全く異なります。真似をするということではなく、地域協働の目的や考え方を研修会当日に学んでください。